

農業技術

プリズム

中生温州「石地」は、本県の一部地域で35・8畝(平成25年特産果樹生産動態調査)栽培されています。本品種は、浮き皮の発生が少なく良食味ですが、生育初期の樹勢が強く、また着果が始まると葉が小型化し、新梢(しんしょう)が短くなるなど、樹勢が低下する事例があり隔年結果しやすいことが報告されています。

このことから、着果の安定と品質向上のため、わい性台木であるヒリュウを利用した効果について、樹体生育や収量、果実品質への影響について調査をしました。

また、ヒリュウ台はカラタチ台と同程度の果実品質となり、さらにシートマルチ栽培を組み合わせることにより糖度は高く、商品性が向上することも明らかになりました(表)。

(県農林技術開発センター果樹・茶研究部門カンキツ研究室)

中生温州「石地」台木の効果

ヒリュウ台使用で安定生産が可能に

ルチ被覆を組み合わせて比較しました。ヒリュウ台の「石地」の樹高はカラタチ台に比べてやや小さく、樹容積は7割程度となりますが、収量の変動が小さく、4年間の平均収量に有意な差はありませんでした。

田中加奈子

「石地」の台木の違いとシートマルチの有無による収量と果実品質 (2010~14年(8~11年生)平均)

区分	収量		果実品質			
	平均収量 ^z (kg/樹)	変動係数 ^y	果実重 ^z (g)	糖度 ^z (Brix)	酸含量 ^z (g/100ml)	果皮色 ^z (a/b)
ヒリュウマルチ	24.1 a	21.4	132.2 b	13.1 a	0.90 a	0.40 a
ヒリュウ無マルチ	22.3 a	45.1	150.5 a	11.6 b	0.76 b	0.38 b
カラタチマルチ	28.3 a	58.9	151.0 a	11.8 b	0.94 a	0.37 b

z) 縦の異なる文字間には、Tukeyの多重検定により5%の水準で有意差有り
y) 変動係数(標準偏差/平均値) × 100で算出